

三菱商事70周年

～人を、組織を、事業を動かしてきた言葉と共に～



三菱商事創立

旧三菱商事はGHQの指令により解散。その後設立された百数十の会社が集約・合併を重ね、現在の三菱商事が発足。

日本の商社が初めて石油元売りに参画

昭和四日市石油

日本の商社が初めて石油元売りに参画し、精製用原油の輸入権を獲得した画期的なプロジェクトだった。



海外における初の本格的な鉱山開発

アタカマ鉄鉱石鉱山開発[チリ]

初の海外における本格的な鉱山開発であり、資源確保とともに現地の発展に大きく貢献。



タイの市場を席捲する自動車事業をスタート

いすゞプロジェクト[タイ]

1957年にスタートしたいすゞ製トラック完成車輸入以来、販売事業を中心に自動車事業の川上から川下まで充実したバリューチェーンを構築し、トップブランドの地位を確立。

世界のエネルギーの質的転換を導く

ブルネイLNG[ブルネイ]

当時の資本金をはるかに上回る450億円を投じたブルネイLNGは、商取引から開発投資への転換を象徴するプロジェクト。



世界有数の石油化学事業SHARQ

サウディ石油化学プロジェクト[サウジアラビア]

石油から出る随伴ガスを有効活用する石油化学プラントを誘致したいというサウジアラビアの要請に応じて1970年に交渉がスタート。1981年に日本政府も共同出資する国際プロジェクトとして事業会社SHARQが設立された。



創業期 基礎固めの時代

高度経済成長期

石油危機と低成長の時代

バブル経済とその後

1954

1960

1966

1974

1980

1986



万事、正々堂々と行動し、健全かつ清新な社風の確立に努力すべし。

初代社長
高垣 勝次郎

異なる社風をまとめ上げ、三菱商事のあるべき姿を示した。



商売の根本は何と言っても人と人との信用。

2代目社長
荘 清彦

高度経済成長で浮かれることなく、人との信頼関係の大切さを説き、成長へと導いた。



人こそまさに最大の資産。

3代目社長
藤野 忠次郎

商社不要論が吹き荒れる中、自由闊達にやってほしいと活気ある組織づくりに努めた。

●連結当期純利益の推移



商社の機能と役割は、経済活動のある限り、また人間の生活が存在している限り、絶えることなく存在する。

4代目社長
田部 文一郎

第1次オイルショック、物価高騰から商社に不信感が募る中で、日本経済発展における総合商社の必要性を訴えた。



変化のあるところに商機あり。

5代目社長
三村 庸平



収益の伴わない売り上げではいかん。要するに正直ベースでいこうや。

6代目社長
近藤 健男

バブル経済で日本の自動車や電子機器産業が台頭する中、時代の要請に応えられる商社へと変革を促した。

総合商社売上高首位の座を明け渡す可能性があり、大きな経営判断を迫られる中、無意味な売上高競争をやめ、実態の収益が大切だという指針を示した。

世界の海を駆ける 船舶事業

船舶事業はトレーディングやファイナンス機能を高度化・融合させ、独自のビジネスモデルを確立した。



鉄鋼流通の リーディングカンパニー 「メタルワン」誕生

鉄鋼製品事業

鉄鋼製品の販売に加え、在庫・加工・製造・物流という幅広い機能で、鉄鋼メーカーと需要家をつなぐバリューチェーンを構築。

国内最大級の 食品流通会社誕生

「三菱食品」誕生

多様化する消費市場のニーズに的確かつスピード感を持って応えるため、経営資源を結集し、「食」を総合的に支える食品中間流通のリーディングカンパニーとして活躍。



「獲る漁業」から「育てる漁業」へ 鮭鱒養殖事業に参入

Cermaq

「持続可能で安全・安心な養殖サーモンを世界中に供給する事業に参入。ノルウェー、チリ、カナダの3カ国で、年間約20万トンのサーモンを養殖する世界有数のサーモン養殖・加工・販売会社に成長。

オランダ総合エネルギー事業会社 Eneco 社の買収

再生可能エネルギー開発を積極的に進める先進的な総合エネルギー事業会社、オランダ Eneco を買収。デジタル技術を活用しながら人々の生活インフラを支え、低炭素化社会への移行や地球環境保全といった社会課題の解決に貢献することを目指す。



バブル経済とその後

ITの発達とグローバル

ゼーション

大災害と第4次産業革命

低・脱炭素社会へ

1992

1998

2004

2010

2016

2022



一番大事なことは
プランを作ることではなく、
実行すること。

7代目社長
諸橋 晋六



波風を立てよ。

9代目社長
佐々木 幹夫

IT技術の普及により
世界規模の大競争時代
に突入する中、「完璧主義」「前例主義」「官僚主義」を廃すために、組織に変化を促していった。

価値観や秩序が変化し、
多様化していった時代に、
次世代の事業の種を育成した。



当事者意識。
逃げず、臆せず
挑戦し続けよう。

11代目社長
小林 健

100年に1度といわれる出来事が
幾度も起きる時代に、当事者
意識を持って挑戦し続けること
を呼び掛け続けた。

AIやIoTによるイノベーションが起こる中、
環境に応じて事業を入れ替える
循環型成長モデルを導入した。

近藤社長の遺志を継ぎ、
構想を実現することの
重要性を説いた。



健全なグローバル
エンタープライズ。

8代目社長
榎原 稔

バブル崩壊で経済が低迷
する中、連結重視と資産
の優良化を進め、バブル期
の負の遺産を一掃した。



変化をとらえて、
未来を拓く。

10代目社長
小島 順彦



社員の成長が会社の発展のすべて。
いかなる産業にも寿命があることを
認識し、勇気をもって判断して、
変化を先取りしよう。

12代目社長
垣内 威彦